

## I 研究主題

確かな学力を身に付け、主体的に生き生きと学習する児童の育成  
～将来を見つめ、自らの生き方を考える力を育てるキャリア教育を基盤にして～

## II 主題設定の理由

今日の社会においては、子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。また、環境の変化は、子どもたちの心身の発達にも影響を与えはじめ、身体的には早熟傾向にあるが、精神的・社会的側面の発達はそれに伴っておらず、遅れがちであるなど、全人的発達がバランス良く促進されにくくなっている。具体的には、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定できない、自己肯定感をもてない、将来に希望をもつことができない子どもの増加などがこれまでも指摘されてきたところである。

この傾向は、本校の児童においても例外でなく、自らの考えや気持ちを適切に述べたり、表現したりすることを苦手とする児童の増加や、発達段階相応に人間関係構築の上でのコミュニケーション力が高まっていない児童も少なからず見られる。また、学校や社会の中で自分の役割を果たしながら、得意なことや好きなことを生かして将来なりたい自分の姿を描いたり、目標を持ったりすることを通して、今できることをやり尽くそうとする児童の姿が少なくなった現状も見られる。

このような少子高齢化、産業・経済構造の変化、雇用形態の多様化・流動化などが急激に進んでいる社会の現状から考えると、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくために、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠であると考え。そのために、日常の教育活動を通して、学ぶおもしろさ、学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させ、子どもたちが、未知の知識や体験に関心をもち、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、生涯にわたって主体的に学びつづける意欲を育成する教育課程の編成が急務であるとも考える。

また、昨年度本校が推進してきた地域の人やものを活用した地域連携による活動は、他者の存在の意義を認識し、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人・職業人を育むための基盤づくりともなった。今後さらに、子どもたちが将来自立した社会人・職業人を目指し、自らの学びを高めていくためには、学校教育だけではなく、子どもたちにかかわる家庭・地域と連携して、同じ目標に向かう協力体制を築くことが不可欠であると考え。

今、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、主体的に生き生きと学習する児童を育成する教育が強く求められていると考える。

そこで本研究は、キャリア教育を研究を基盤とし、全教育活動の中で義務教育9年間を通して、意図的・継続的に推進していくものである。日常的な様々な「役割」遂行の経験を積み重ねながら、児童一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化、地域とかかわる体験活動を身近なところから徐々に広げ、教育課程上に設定していく。さらに全教科・領域における本校教育課程とのキャリア教育との関連を明確にし、計画的・系統的に「自己の生き方」やについて考えさせたり、「子ども一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度」を育てたりする本研究は、大変意義深いと考える。

### Ⅲ 研究のねらい

義務教育9年間を見据えた小学校におけるキャリア教育を推進するために、キャリア教育の必要性とその意義を十分に理解し、キャリア教育に視点を置いた全体計画及び教育課程の見直し、実践を通して子どもの自主的な学びを高め、学力向上を図る。

### Ⅳ 研究の仮説

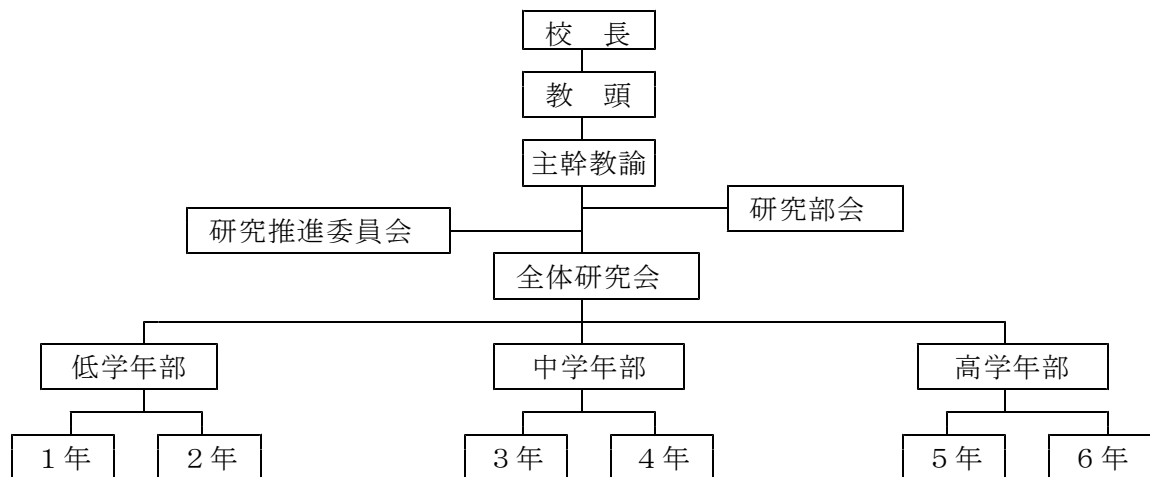
全教育課程の中にキャリア教育を効果的に位置づけ、教育実践（人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力育成）を行えば、児童の自己肯定感が高まるとともに、自ら学ぶ力を獲得していき、学力が高まるだろう。

### Ⅴ 年次計画（3年計画）

年次	カテゴリー	主な研究内容及び実践
1	理論研究 実態把握	① キャリア教育についての理論研究 ② 児童生徒の実態の把握 ③ キャリア教育を推進する上で、身に付けさせたい能力の明確化 ④ キャリア教育の視点に立った本校の目指す児童像と教育目標の設定
2	教育課程 編成	⑤ 学校におけるキャリア教育の取り組み（教育課程）状況把握 ⑥ 到達目標の明確化と評価基準の設定 ⑦ 目標達成のためのキャリア教育全体計画等の作成 ⑧ 各教科・領域等と関連付けられた年間計画の作成
	小中連携	⑨ 義務教育9年間を見据え、大宮中学校区3校で合同で研修や実践を重ね、系統性のあるキャリア教育を核にした教育課程を編成する。
1 2 3	実践	⑩ 授業実践
1 2 3	啓発・連携 評価	⑪ 家庭、地域に対してキャリア教育に関する啓発・連携推進 ⑫ 研究及び授業実践等の評価、推進組織等のあり方の
3	総合実践	⑬ キャリア教育を核にした教育課程を精査しつつ実践を重ね、成果と課題をまとめる。

\* ⑤⑥等に関しては、研究の進行具合により前倒しもある。

## VI 研究の組織



- 1 全体研究会・・・全職員参加のもと，理論研究や授業研究を通して共通理解を図る。
- 2 研究部会・・・研究部員で構成し，主題研究についての理論等について企画提案する。
- 3 研究推進委員会・校長，教頭，主幹教諭，研究部員で構成し，本校の研究について企画・提案し，研究の推進を図る。
- 4 学年部研究会・・・各学部担当の職員で構成し，理論研究や実践研究の在り方について話し合い，授業実践や研究授業を行い，共通理解を図る。
- 5 学年研究会・・・各学年担当職員で構成し，具体的な授業実践を行うための話し合いを行う。
- 6 研修日・・・原則として，水曜日（隔週）の職員研修の時間を充てる。

## VII 研究計画

### 平成23年度主題研修予定

回数	月	日	曜	形態	研修内容
1		4	水	主題研（全体研）	本年度の研究の方向性説明
2	5	2	月	主題研（全体研）	本年度の研究内容及び組織説明，共通理解事項確認， 学力向上プラン各学年部仮説内容等設定 学校支援コーディネーター運用説明
3		11	水	主題研（全研）	主題設定の理由，仮説，研究内容，日程説明
4	6	1	水	主題研（全体研）	キャリア教育理論研①
5		15	水	主題研（全体研）	キャリア教育理論研②・児童実態把握説明等
6	7	6	水	主題研（全体研）	キャリア教育理論研③
7		13	水	主題研（全体研）	キャリア教育理論研④・実態分析等
8		20	水	主題研（全体研）	学校訪問に向けての確認及び授業者の決定等
夏季休業中別途計画				主題研（全体研・学年部研）	領域（人間関係形成能力）の体系化
				主題研（全体研・学年部研）	領域（情報活用能力）の体系化
				主題研（全体研・学年部研）	領域（将来設計能力）の体系化
				主題研（全体研・学年部研）	領域（意思決定能力）の体系化
9	9	7	水	主題研（全体研・学年部研）	学校訪問に関する研究内容（目標）の確認
10		21	水	主題研（学年部研）	各班（学年部）での取組について検討・実施
11	10	7	金	主題研（学年部研）	事前研究会①
12		12	水	主題研（学年部研）	各班（学年部）での取組について検討・実施
13		18	火	主題研（学年部研）	事前研究会② <b>【指導案締め切り】</b>
14		25	火	主題研（全体研・学年部研）	授業準備（模擬授業，資料作成等）
15	11	4	金	主題研（全体研・学年部研）	授業研究会① <b>【学校訪問】</b>
16		9	水	主題研（全体研）	学校訪問の反省
17	12	14	水	主題研（全体研・学年部研）	現教育課程とキャリア教育の取組状況把握
18		21	水	主題研（全体研・学年部研）	現教育課程とキャリア教育の取組状況把握
冬期休業中別途計画					紀要関係（予定）
19	1	11	水	主題研（全体研）	研究のまとめ（研究紀要の検討作成）
20		18	水	特別支援教育研修	特別支援教育授業研究会
21		25	水	主題研（全体研）	研究のまとめ（研究紀要の作成）
22	2	8	水	主題研（全体研）	本年度の研究の反省・次年度研究の方向について
23	3	7	水	主題研（全体研・学年研）	CRTテストの分析・その他